

公害の原点から考えるSDGs

日本環境会議 一般公開セミナー

日本環境会議は、研究者、弁護士、医師、ジャーナリスト、市民活動家などが集まって、日本の公害問題や環境問題の解決のために1979年に設立された組織です。季刊誌『環境と公害』（岩波書店発行）と年1回の大会やシンポジウムを通じて、40年に渡って環境政策に関する問題提起を行ってきました。現在、日本政府や国際社会は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals: SDGs）に向けて、各地で取り組みを推進しています。SDGsによって、はたして私たちの社会は持続可能な方向に向かうでしょうか。本セミナーでは、環境問題の歴史と現状を踏まえて、SDGsの課題について再考したいと思います。

宮本 憲一

「環境と開発のジレンマを克服できるか
—SDGsの課題」

原科 幸彦

「SDGsの展開とインパクト・アセスメント」

大久保 規子

「環境ガバナンスの観点から見たSDGs」

日時

2019年1月26日（土）
14:30～17:30（14:00開場）

場所

金沢市下本多町6番丁27番地
金沢歌劇座 第9会議室

プロフィール

宮本憲一：

旧制第四高等学校、名古屋大学卒。経済学博士。金沢大学助教授、大阪市立大学教授、立命館大学教授、滋賀大学学長を経て、現在、大阪市立大学名誉教授、滋賀大学名誉教授。主著に、『恐るべき公害』（共著）、『社会資本論』、『都市経済論』、『環境経済学・新版』、『戦後日本公害史論』など。

原科幸彦：

東京工業大学卒。工学博士。東京工業大学助手、教授、総合理工学研究科長を経て、現在、千葉商科大学学長、東京工業大学名誉教授。主著に、『環境計画・政策研究の展開』（編著）、『市民参加と合意形成』（編著）、『環境アセスメントとは何か』、『都市・地域の持続可能性アセスメント』（共編著）など。

大久保規子：

学習院大学卒。一橋大学大学院修了。法学修士（ギーン大学）。博士（法学）。群馬大学講師、甲南大学教授を経て、現在、大阪大学教授。専門は、行政法、環境法。主著に、『緑の交通政策と市民参加』（編著）、『自治体政策法務講座 争訟管理』（編著）、『公害環境訴訟の新たな展開—権利救済から政策形成へ』（共編著）など。

お申し込みはこちら

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/c9b3d2da603078>

参加費：資料代500円（日本環境会議会員は無料）

主催：日本環境会議

共催：金沢大学地域政策研究センター
環境政策形成史研究プロジェクト
(JSPS科研費17H01930)

後援：国連大学サステイナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット